



令和5年2月28日

永福学園通信

R4 第10号

東京都立永福学園
校長 緒方 直彦



「共に生きる」～共生社会の実現～



今年度の文化プログラムでは、書家の金澤翔子先生とお母様の泰子先生に来校いただき、書道パフォーマンスを御提供いただいたり、実際に児童・生徒が大きな筆で書道をしたりしました。金澤翔子先生は、「**共に生きる**」という言葉を書いた大きな和紙に書いてくださいました。参加した就業技術科と肢体不自由教育部門の生徒や大塚ろう学校永福分教室の児童は、大胆なパフォーマンスに感動した様子でした。

本校は、高等部就業技術科と肢体不自由教育部門が設置されている肢知併置校です。さらに、同じ校舎の中に大塚ろう学校永福分教室があります。私は、学校や部門の違いを超えて、互いが尊重し合い、支え合い、楽しみを分かちあえるような学校にしたいと思っています。特別支援教育が始まり16年になろうとしています。本校は、ちょうど特別支援教育が始まった年（平成19年）に開校しています。

特別支援教育が最終的に目指すものは、障害がある人もない人も、互いを尊重し、支え合う「共生社会」の実現です。都立永福学園は、「共生社会」を既に具現化している学校でありたいと願っています。さらに、児童・生徒の皆さんには、「共生社会」を地域や様々な活動場所で実現させる人になってほしいと期待しています。

校長 緒方 直彦

令和4年度 文化プログラム 日本の伝統文化「書道パフォーマンス」

2月3日（金）書道家の金澤翔子さんをお招きして、肢体不自由教育部門高等部、就業技術科3年代表生徒、大塚ろう学校分教室小学部5・6年の児童が、体育館に集まり迫力のパフォーマンスを見せていただき、書道体験をしました。

書いていただいた言葉は『**共に生きる**』 その様子を御紹介します。

〈肢体不自由教育部門〉「温かい響きが良いから」との理由で『共に生きる』を書いてもらう、と生徒たちが選びました。生徒全員がパフォーマンスに集中、静けさの中で太筆の動きに視線が向いていました。太筆を持った生徒は「持てると思わなかった」「感動した」「書けて気持ち良かった」と話していました。 【主任教諭 小楠友子】

〈大塚ろう学校分教室〉迫力ある書道パフォーマンスは、一筆に込められた思いを感じた様子でした。書道体験では初めて持つ大きな筆に緊張しながらも、みんなで一画ずつ力を合わせて「共に生きる」という文字を完成させました。書道の楽しさ、そして奥深さを実感する貴重な機会となりました。 【教諭 角江 さくら】

〈就業技術科〉3年生のうち書初め会で優秀賞を受賞した生徒が、代表して参加しました。金澤さんの書写する姿やその文字を実際に見たこと、大筆を使って書写体験をしたことは、生徒にとって大変得られがたい貴重な経験となり、生徒からは「ただただ凄かった」という言葉が聞かれました。 【教諭 小川 みずき】



One school!! One team!!



成人になることに向けての学習

【肢体不自由教育部門】主権者教育

高等部では、各生徒が、「公共」、「キャリア演習」、「社会」、「生活単元学習」などの授業で、『成人するということ』や『選挙や投票について』の学習をしました。特に3年生は18歳という自分の年齢を意識し、成人年齢は18歳、選挙で投票ができる、ことに高い関心を持ち、投票することを楽しみにしている生徒もいました。投票用紙の書き方の注意点等も学習し、小さな投票用紙に書くことが困難な場合は、代理投票の依頼ができること、その際は選挙管理委員会の方に意思を明確に伝える力が求められることを学びました。

2月24日（金）には、杉並区選挙管理委員会による模擬投票の出前授業を実施しました。「投票用紙の枠から字が出て大丈夫か？」など、自分の投票を想定した質問も出ました。投票体験後、生徒からは、「思っていたよりも、簡単だった。」「選挙管理委員会の方が親切で、安心して依頼できた。」などの感想がありました。今回の授業や模擬投票体験が、将来の投票への意欲、そして社会参加への意識向上につながってほしいと願っています。

【指導教諭 市宮 環美】



【就業技術科】

【主権者教育】1年生社会科では、7月に選挙の歴史や仕組み等を学習しました。第26回参議院議員通常選挙の時期に合わせて学習を行い、生徒は真剣に「なぜ選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたのか」「若い人の投票率を上げるための施策」等を考えました。2年生では、2月24日（金）杉並区選挙管理委員会の出前授業を実施しました。事前に模擬の「選挙公報」を読んで、政策に共感できる候補者を各自選びました。当日は、選挙に関する決まりや注意事項などを学んだあと、本物と同じ投票用紙・投票箱を使って、投票を体験しました。「分かりやすかった。選挙の大切さを知ることができた。」との感想が多く聞かれました。投票に行ってみよう、と思うことが初めの一歩です。 【主幹教諭 土田 律子】

【消費者教育】3年生家庭科では、1月に東京都消費者啓発員の方を講師に迎え、「消費者センスを磨こう」という授業を行いました。成人年齢が18歳になったことで消費者契約でのトラブルに遭いやすくなったことを学び、身近なネットショッピングの事例や注意点を学びました。実際に、電話勧誘やキャッチセールスのロールプレイで断り方の練習をしました。生徒からは、「勇気を出して断ること、困ったときは相談することの大切さが分かった。」などの感想が聞かれました。自分は大丈夫と思わず、冷静に行動する力を付けることなどを再確認しました。 【指導教諭 鹿島田 真由美】

東京都立永福学園

○肢体不自由教育部門

副校長 秋本 友美 小松 弘喜

主幹教諭 池田 佳信

○就業技術科

副校長 山崎 裕之

主幹教諭 土田 律子



〒168-0064

東京都杉並区永福1丁目7番28号

電話 03-3323-1380

ファクシミリ 03-3323-1381

ホームページ

<http://www.eifuku-sh.metro.tokyo.jp/>